

平成29年度

## 教育民政常任委員会行政視察研修報告書

教育民政常任委員会

委員 瀧澤 征 幸

平成29年11月16日（木）午後2時～

視察テーマ と 研 修 先	高齢者見守り事業の取組について  【東京都練馬区役所】
視 察 内 容	<p>昭和22年8月1日、板橋区から23番目に独立し今年70周年の練馬区。当時11万人の人口が現在72万になったという。</p> <p>高齢者人口の増加は全国どこでも同じで増加の一途を辿っているが、平成29年度推計では、65歳以上の高齢化率は21.8%と、遠野市の38%とは比較にならない。それでもいち早く高齢者にやさしい行政を進めるために、65歳以上の区民の細かい分析を行い、高齢者を見守るためのネットワークづくりを進めている。</p> <p>それは地域包括ケアシステムの確立である。もちろん当市においても同じような取り組みを進めてはいるが、練馬区では平成26年9月から電気、水道等の事業者と協定をかわし、現在では29団体と高齢者見守りネットワーク事業協定を締結し、<b>高齢者の見守りの層を重層化</b>していることに特徴がある。しかも、協定締結事業者等へは見守りの参考資料等を提供し、異変があった場合に速やかに通報できるようにしている。ゆるやかな気付きのポイントなどの周知を図り、個人情報の取扱いの取り決めもしっかり行っている。</p> <p>このケアシステムの中には、高齢者相談センターが10法人あり、ケアマネ、保健師や看護師、社会福祉士、医療介護連携推進員、認知症地域支援推進員が配置されている。区全体を4ブロックに分け、ブロックごとに相談センターと相談センター支所がそれぞれ4カ所と25カ所設置されている。来年度からはセンターとセンター支所を全部で25カ所に見直すようであるが、そのきめの細かい相談所配置数は、48平方キロ（遠野市の6%の面積）の中で驚きであったし、ひとり暮らし高齢者等訪問支援事業と見守り訪問事業をフル稼働させており、高齢者に本当にやさしいまちづくりを進めていることがよく伝わってきた。</p>
感想・意見	<p>遠野市は、福祉行政の先進地としてかつては名をはせた時代もあったが、今ここに至り、全国各地で福祉行政、特に高齢者福祉に係る先進的取組が進められている。</p> <p>私もかつては上郷町だけの一人暮らし世帯数、二人暮らし高齢世帯数などを民生児童委員の方々の協力を得て調査した経緯があるが、要はいかに声掛けし、いかに見守るかであり、地域や行政区、集落といった単位での高齢者見守りシステムについて、基本に立ち</p>

	<p>返って再構築する時期にきているように感じる。</p> <p>現在、遠野市社会福祉協議会と市行政が連携をし、地域福祉計画やその活動計画を作成しているが、形や文書だけのつながりになっていやしないか検証も今後求められる。</p>
--	--

平成 29 年 11 月 17 日（金）午前 9 時 30 分～

視察テーマ と 研 修 先	<b>放課後デイサービス等の取組について</b> <b>【東京都千代田区（一社）D&amp;A Networks】</b>
視 察 内 容	<p>午前 9 時 30 分過ぎに伺い、パワーポイントと巧みなお話によって研修を受けることができた。場所はとあるビルの 5 階？の大きな一部屋であった。子ども定員 10 名（4 m<sup>2</sup>以上/人）の遊びから生きる力を育む「ぴかいち」は児童発達支援・放課後デイサービスということで、本当は午後にお邪魔すればよかったと後から思った。</p> <p>この団体は、幼児から高校生までの個別活動・集団活動の支援、子どもたちが参加するイベント企画、運営、次世代育成、リーダー養成、社会福祉関連事業、若者や学生の地域活動支援などを産学官民連携で子ども環境づくり、社会福祉ネットワークを構築することなどが目的で、子どもや障がい者、高齢者など、地域の人々をまきこんで活動を行っている素晴らしい組織であった。</p> <p>区役所にも専門家がないため、直接相談に対応、アドバイスをを行い、地域と区役所をつなぐ何でも屋と豪語する。また、行政とは違い、支援者が代わらないよう同じスタッフや同じ施設で相手をするから信頼度が全く違ってくるといふ。今では、隣の区からもわざわざ利用のために出かけてくるそうである。</p> <p>この事業の制度は、介護保険法による施設運営とほぼ同じで 1 割負担であるが、施設運営には 2 年分の余力がないとやっていけない。ようやく軌道にのってきたとのこと。</p>
感想・意見	<p>当市でいえば、児童館や児童クラブと保育園や幼稚園を合体したような団体であるが、いわばそこには専門の指導員が介在している。子供会づくりや地域づくり、高齢者対策などを実践し、様々なイベントの企画・運営には、大学生含めて多くの区民のボランティアによる協力も得るとのこと、千代田区になければならない重要な施設となっている。遠野市では考えられないような活動でもある。なんとなく、都会らしさ？がそこにあるようにも感じた。障がい児を取りまく環境や社会認知は、当市ではまだまだ遅れているようにも感じたところであり。何らかの施策を講じていく必要性を強く感じた。</p>

## 平成29年度 議員研修報告書

平成29年11月17日（金）午後2時～ 瀧澤征幸

<p>視察テーマ と 研 修 先</p>	<p><b>議会改革の理念と背景、ICT推進について</b> 【東京都中央区日本橋「コレド日本橋」早稲田大学マニフェスト研究所】</p>
<p>視 察 内 容</p>	<p>遠野市議会があえて議会改革と位置付けて取り組んでから6年以上となるが、これまでも諸先輩議員方が様々な角度から議会改革を押し進めてきた事実がある。</p> <p>しかし、今回の研修においては、議会改革の状況を数値化し、分かりやすく解説していただくことができた。全国約1700自治体の中で、当議会は総合順位で283位であり、情報共有の部分で715位と落ち込んでいることによる順位の低下である。</p> <p>目標を掲げ、その目標が変われば「思考、行動」が変わっていくとの解説であり、正にそのようにも思われる。情報共有の部分でもっと改革が進めば、当議会は200番台に位置付けられることも不可能ではないように思う。</p> <p>研修はパワーポイントにて行われ、資料をいちいち見なくてもできるよう配慮され、情報共有、住民参加、機能強化の大きくは3要素で各自治体を評価しており、議員提案条例、事務局改革、ICT推進が進んでいないことが資料からは際立つ部分である。</p> <p>特にもICTは議員活動のすべてに関わってくるものであり、災害時においても大きな機能を発揮する事例の紹介もあった。だからICT推進は重要であるとの結論でレクチャーは終わった。</p>
<p>感想・意見</p>	<p>この研究所は、全国自治体及びその自治体の現状を把握し、数値による見える化をしており、それを更にグラフ化して指標化するなど、素晴らしい研究所と感じた。</p> <p>議会改革ランキングも大事であるが、当議会の場合、情報共有の部分の落ち込みを修正することによって、特にもタブレット等の活用によってさらに改善されていく？との解説であったが、情報の共有化の意味とインターネット利活用とそのためのツールやデバイスの選択と予算確保と議員意識醸成の5要素について、やはり絵空事ではなく、ある程度現実的な調査・研究をする必要がある。</p> <p>従って、人と予算がない中で、ペーパーレス化、情報共有を進めるために本当にタブレット活用を考えるならば、そのための特化したグループ、或いは特別委員会を設けて強力に進めるしか、遠野市議会での実現はかなり難しいのではないかと考えられる。ましてや、遠野市議会事務局の人員は1人欠の状況で、資料等のデータ化を進めるにも、現状では「むりむり」の声が聞こえそうである。当面は、議員個人でのタブレット活用しかないのかなとも思う。</p>